



3つの枝実を
一本の木から彫り出した
本物さながらの
リアルな
さくらんぼ。

【木彫】
岩崎 努 (1972年生まれ)
《さくらんぼ》
楓、水干絵具、胡粉、膠、漆
2021年

【関連行事】

講演会「超絶技巧の未来(仮題)」
2023年12月16日(土) 14:00～(開場13:50)
[出演] 山下裕二 氏(本展監修者、明治学院大学教授)
[会場] 映像ホール
[定員] 先着50名 要・事前申し込み／聴講無料
※当日有効の本展観覧券が必要です。
[申込方法] 水墨美術館へ電話で申し込みください。(Tel. 076-431-3719)
受付開始=11月21日(火)／受付時間=開館日の9:30～18:00
※定員に達し次第、締め切りいたします。



「参加アーティストによるトークセッション」
2024年1月27日(土) 14:00～(開場13:50)
[出演] 若宮隆志 氏、岩崎 努 氏、池田晃将 氏
[会場] 映像ホール、展示室1・2 [定員] 先着50名 申し込み不要／聴講無料
※展示室入場の場合は、当日有効の本展観覧券が必要です。
※満席になり次第、入場を制限させていただく場合があります。

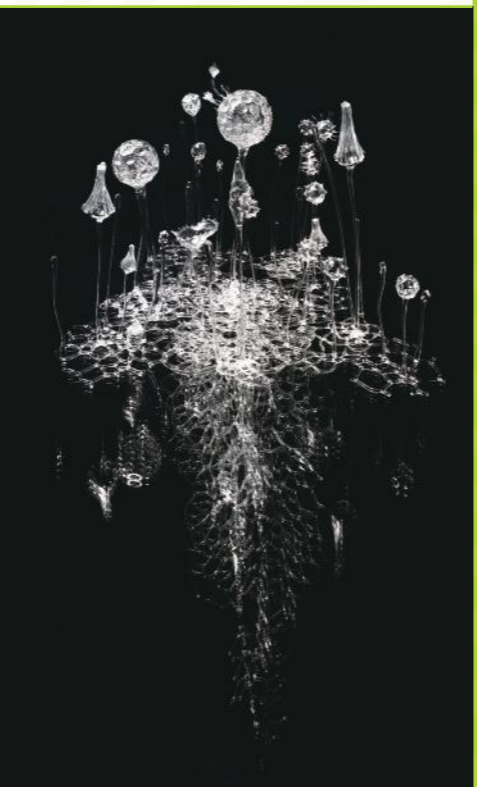
ギャラリートーク
2024年1月6日(土)、1月20日(土) 各日14:00～
[講師] 当館学芸員
[会場] 展示室1・2 申し込み不要 ※当日有効の本展観覧券が必要です。

- ◎出品現代作家(五十名順)
- | | |
|-----------------|------------|
| 青木美歌 [ガラス] | 樋渡 賢 [漆工] |
| 池田晃将 [漆工] | 福田 亨 [木彫] |
| 稲崎栄利子 [陶磁] | 本郷真也 [金工] |
| 岩崎 努 [木彫] | 前原冬樹 [木彫] |
| 大竹亮峯 [木彫] | 松本 涼 [木彫] |
| 蝸牛あや [刺繍] | 盛田亜耶 [切り絵] |
| 小坂 学 [ペーパークラフト] | 山口英紀 [水墨画] |
| 長谷川清吉 [金工] | 吉田泰一郎 [金工] |
| 彦十蒔絵 若宮隆志 [漆工] | |

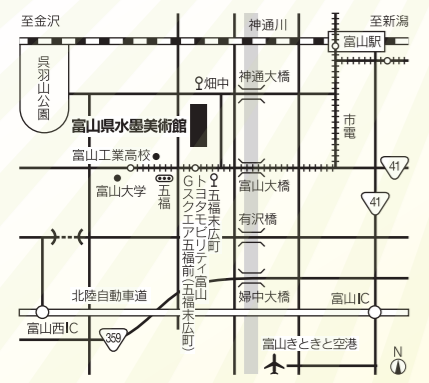
観覧料	前売券(一般のみ)	当日券	団体(20名以上)
一般	700円	900円	700円
大学生	-	450円	350円

※企画展の観覧料で、常設展もご覧いただけます。
※小・中・高校生及びこれらに準ずる方、社会人等で18歳以下の方、児童福祉施設等に入所または通所している方、各種手帳をお持ちの障がい者の方及び付添の方お1人は常設・企画展ともに観覧無料です。
【前売券販売所】12月7日まで販売
富山県水墨美術館・富山県美術館・アーツナビ(富山県民会館・富山県教育文化会館・富山県高岡文化ホール・新川文化ホール)

【ガラス】



青木美歌 (1981-2022)
《あなたと私の間に》
ガラス、ステンレススティール
2017年



- 交通のご案内
- 【富山駅南口から】
 - 市内電車: 大学前行「トヨタモビリティ富山Gスクエア 五福前(五福末広町)」下車、徒歩約10分
 - バス: ③乗場から小杉・高岡方面行、北代循環、富大附属病院循環「五福末広町」下車、徒歩約10分 ⑦乗場から四方・石坂・新桜谷町行、北代循環「畑中」下車、徒歩約10分
 - タクシー: 約10分
 - 【富山空港から】
 - タクシー: 約25分
 - 【北陸自動車道富山IC・富山西ICから】
 - 自動車: 約20分 ※駐車場(無料)／乗用車165台、バス7台

- 館内施設
- ミュージアムショップ「風花」(企画展会期中のみ営業予定)
 - 茶室「墨光庵」※冬季休業中
- 次回予告
- 川端龍子展 2024年3月15日(金)～5月下旬
- 富山県水墨美術館**
THE SUIBOKU MUSEUM, TOYAMA
- 【お問い合わせ】〒950-0887 富山市五福777
TEL: 076-431-3719 FAX: 076-431-3720

常設展示 近代水墨画の系譜／下保昭作品室 ※企画展の観覧券でご覧いただけます。

<https://www.pref.toyama.jp/1738/>

In the Genes,
Taking Marvelous Meiji
Craftsmanship
into the Future

鹿角を使った月下美人の花弁。
花器に水を注ぐと
ゆっくり花が開く
驚きの仕掛け。

【木彫】大竹亮峯
(1989年生まれ)
《月光》2020年



2023
12/8 Fri
→ 2024 2/4 Sun

【開館時間】9:30～18:00 (入室は17:30まで)
【休館日】月曜日(ただし1月8日は開館)、
12月29日(金)～1月3日(水)、1月9日(火)
※初日は、開会式終了後に一般オープンとなります。
【主催】富山県水墨美術館、北日本新聞社、チューリップテレビ
【協力】清水三年坂美術館 【監修】山下裕二(明治学院大学教授)
【企画協力】広瀬麻美(浅野研究所)

富山県水墨美術館
THE SUIBOKU MUSEUM, TOYAMA



蝶は「立体木象嵌」。
水滴は板全体を
彫り下げて浮き彫りにし、
研磨してツヤを出しています。

【木彫】福田 亨(1994年生まれ)
《吸水》(部分) 2022年

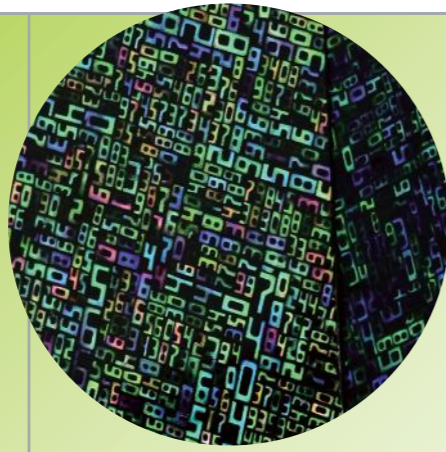
明治工芸とそのDNA

超絶技巧、未来へ！

明治工芸と現代作家をつなぎ、大きく注目を浴びた「驚異の超絶技巧！明治工芸から現代アートへ」。2018年に当館でも開催したこの展覧会が、よりパワーアップして帰ってきました！今回は、再評価が更に高まっている明治工芸とならんで、木彫・漆工・金工・陶磁・ガラスなど、様々な素材を扱う現代作家たちを多く紹介します。

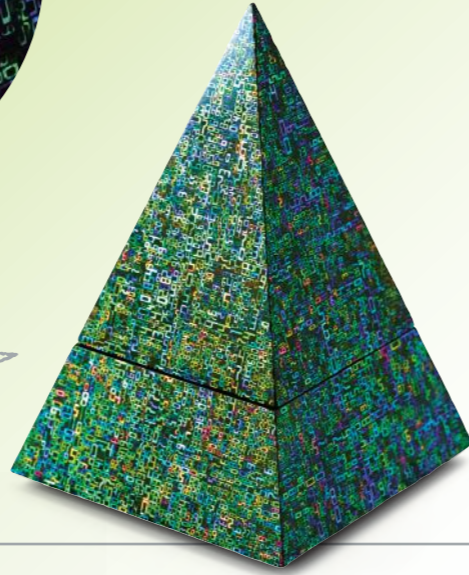
伝統を受け継ぎつつも、革新的な発想で生み出された、緻密で繊細な作品の数々を間近でご覧いただけます。これらの意欲的な作品たちは、超絶技巧の未来を担う存在となることでしょう。

極限まで技を磨いた明治・現代の作家たちの共演を、どうぞお楽しみください。



【漆工】

池田晃将 (1987年生まれ)
《百千金字塔香合》
漆、木曽檜、鮑貝、金 2022年
虹色の数字で彩られたピラミッドは、漆器に極小の貝片を貼ったもの。



1, 2, 3, 4 ...
漆に数字？
貝を嵌め込んで
いるのです。



【木彫】

前原冬樹 (1962年生まれ)
《『一刻』スルメに茶碗》
朴、油彩、墨 2022年

パーツを組み合わせることなく、
1本の角材を切り、削り、彩色した一木造り。

上の鎖から
下の足先まで
一本の木から
彫り出された木彫！

In the Genes, Taking Marvelous Meiji Craftsmanship into the Future

【七宝】

並河靖之 (1845-1927)
《草花図花瓶》
清水三年坂美術館蔵

並河七宝には珍しい30センチを超える大作。
黒色釉を背景に、草花をカラフルに表現。



【牙彫】

安藤緑山
(1885-1959)

《柿》
清水三年坂美術館蔵

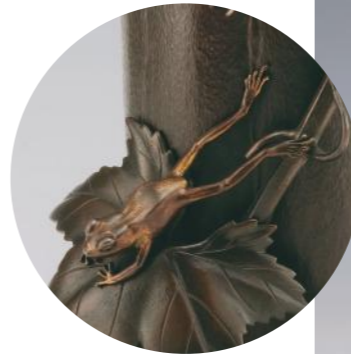
「美術館に果物?! 野菜?!」でおなじみの
人間3Dプリンター・緑山による象牙彫刻の枝柿。



【金工】

正阿弥勝義 (1832-1908)
《糸瓜花瓶》
清水三年坂美術館蔵

へちまの陰から現れたへびに気付き、
逃げ出すカエル。生き物による一瞬の
ドラマを捉えるのが、勝義の得意技。



【漆工】

白山松哉 (1853-1923)
《羽根蒔絵香合》
清水三年坂美術館蔵

吹けば飛ぶような鳥の羽毛。
極細の線描から生みだされる神技の蒔絵。



【金工】

本郷真也 (1984年生まれ)
《Visible01 境界》
鉄、銀 2021年

鉄を金づちで叩く鍛金技法によるカラス。
内部には骨格と筋肉までも表現されている。



先に
骨格と筋肉を作り、
羽を一枚ずつ
重ね付けたカラス。

CTスキャン画像



稲崎栄利子 (1972年生まれ)
《Euphoria》
陶土、磁土、金彩、雲母銀
2023年

土のリングが繊りなす
布のように軽くなやかな磁器。

【陶磁】

曲げる、捻る、
たたむなど
自由自在！

